

たけた100年プロジェクト ～昭和から100年、そして未来へ～

入選作品

作文 “竹田と私～これからの20年、そして100年～

絵画 “100年後に残したい竹田の魅力”

令和7年12月25日

竹田市歴史文化館・由学館

【竹田市教育委員会教育長賞】 久住町の歴史をつないでいきたい

工藤 花音（竹田中学校1年）

久住町には、伝統的に受け継がれている「久住祭り」があります。久住祭りでは、久住町の中で四つの新町・田向・本町・下町の地区に分かれて山車をつくり、町中を押して歩きます。その他に、久住祭りの前夜に「夜渡」というものがあります。本山車の前夜、みこしとたいこをかつぎながら、笛のおはやしに合わせてたいこをたたき、町中を練り歩きます。昔は夜通しやっていたので「夜渡」というそうです。私は、久住祭りでも夜渡でも笛を吹きました。久住祭りの一週間前から同じ地区の人たちと笛やたいこの練習をします。最初は笛の音が出ず大変でしたが、同じ地区の人たちが優しく教えてくれたのですぐ吹けるようになりました。練習の途中で、地区の人からアイスがもらえるのでそれが楽しみで、友だちと一緒に頑張って練習しました。夜渡と久住祭りでは、歩きながら笛を吹くのが難しかったけど、とても楽しかったです。山車も地区の人たちがつくってくれてとてもかっこよかったです。久住祭りの日は出店も出るので友だちと浴衣を着て楽しみました。

久住祭りは地域の人たちの手作りのお祭りです。笛やたいこの練習、山車の制作を地区の人たちが計画的に組んで実施してくれます。地域が一致団結する大切な取り組みです。祭りの当日は、小さな子どもから高齢者まで久住の人たちも見に来る人たちも、みんなが笑顔になる、決してなくしてはいけない祭りです。私自身、とても楽しみにしています。

久住町、竹田市にはたくさんの伝統的な行事があります。最近では人が減っていますが、私は久住祭りのような伝統的なものをなくしたくありません。今の私は参加するだけですが、二十年後も続いているように、来年はもっと周囲に宣伝して人がたくさん集まるイベントにしていきたいです。

【竹田市教育委員会教育長賞】 竹田の未来を考える

山本 陽斗（竹田小学校6年）

ぼくの住んでいる竹田は、川や山が多く自然にめぐまれたところです。春には岡城桜祭があり、夏には入田の河川プールで泳ぎ、秋には竹楽を楽しむことができ、冬には久住高原で美しい星を見ることができます。四季の変化を身近に感じられる竹田の町は、ぼくにとってとても大切な場所です。小さいころから友達と川で遊んだり、家族で商店街のお店に行ったりした思い出がたくさんつまっています。

しかし竹田の町には少しづつ変化が見えています。人口が減り、商店街のお店も以前より数が少なくなりました。にぎやかだった通りがしづかになり、空き店舗が目立つようになったのは少しさみしいことです。また、高齢の方が増えているため、病院や公共交通の便利さなども、これからますます大切になっていくと思います。だからこそ、これから町には工夫と新しい力が必要だと感じます。

たとえば、空き店舗を子どもや若者が使える交流の場にしたり、高齢者が安心して集まれる居場所に変えたりすれば、町にも活気が戻るのではないかでしょうか、また、祭りやイベントを工夫して、町の人だけでなく近くの地域からも人が集まるようになれば町全体がもっと元気になると思います。

ぼく自身も町の一員としてできることを考えたいです。将来、大人になったら、この町で働いたり町の活動に参加したりして少しでも役に立ちたいと思います。たとえば、子ども達にべんきょうを教えるボランティアをしたり町の祭りをき画したりすることで、ぼくも町の未来づくりに参加していきたいです。

この町がいつまでも安心してくらせる場所で、みんなが笑顔で過ごせる場所であってほしいと思います。そして、その未来のために自分にできることを少しづつ実行していきたいと思います。

【竹田市教育委員会教育長賞】

菅 陽音（竹田南部中学校2年）「阿鹿野獅子」



【竹田市教育委員会教育長賞】

菅 萌々（南部小学校6年）「ずっと輝き続ける竹田の名産品」



【竹田市歴史文化館長賞】 竹田と私 受け継ぐ灯り、つなぐ心

北條 里桜菜（竹田中学校1年）

私が暮らす竹田は、山に囲まれ、四季折々に美しい姿を見せてくれます。春には岡城跡を桜が彩り、やわらかな風に花びらが舞います。夏には「久住夏越祭り」の太鼓や鐘、笛の音が町中に響き、昔ながらの衣装を着た人々が町を練り歩く姿に心が躍ります。秋は紅葉が山を赤く染め、冬には「竹楽」で無数の竹灯籠の灯りが人々を照らします。

小さい頃から竹田で育ち、学校の帰り道に友達と見た青空や、道ですれ違うと必ずあいさつをしてくれる地域の人たちの温かさは、私にとってかけがえのない宝物です。

二十年後、私は三十二歳。きっと竹田で暮らし、ここで感じた魅力を多くの人に伝えていくことでしょう。自然や歴史を活かした季節のイベントの企画に関わっているかもしれません。町には新しい店や施設もでき、便利になっているはずですが、それでも変わらない景色や人の温かさは守り続けていきたいと思います。休日には地域の行事やボランティア活動に参加し、「この町で育ってよかった」と思える子どもたちを増やすため、自分にできることをしたいです。

百年後の竹田は、今とは大きく変わっていると思います。新しい技術が町の暮らしを支え、景色も大きく変わっているかもしれません。それでも、この町の自然や伝統は、形を変えながら受け継がれ、竹楽や地域の人々の温かい心は残っていてほしいです。そのために、私はこれからも竹田を大切にし、未来へ繋げる準備をしていかなければなりません。学校で学んだことや地域での経験を次の世代に伝えることが、私の小さな使命だと思います。これから二十年、私は竹田と共に成長し、笑顔あふれる町をつくる一員になりたい。そして百年後、この町を訪れる誰もが「ここには人々の温もりがある」と感じられる竹田であってほしいです。

【竹田市歴史文化館長賞】 竹田のあたたかさのなかで

今木 彩花里（竹田小学校6年）

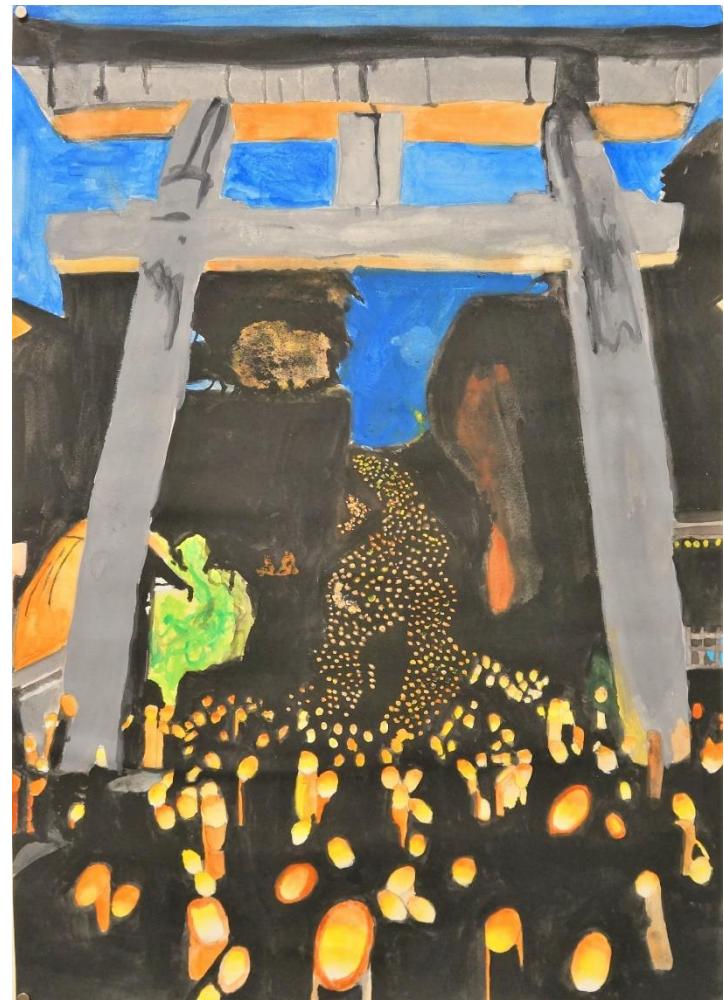
私は幼稚園のころに竹田に引越してきました。初めて竹田に来たときは緊張して泣いたりしていたけれど友達が話しかけてくれたりしてくれて私はここにいてもいいんだと思えました。小学校に入ってもみんなやさしくて今になってはクラスのみんなが家族のような存在です。私はお母さんだけだけれどみんなが一緒にいてくれたので寂しいとは一度も思わなくて毎日が「楽しい」という気持ちでいっぱいです。

竹田は、食べものもとてもおいしいですが、地域の人々がとてもやさしくて竹田の子どもの人たちも車が止まってくれたらおじぎをするなど竹田の人は相手の気持ちを考える行動が私の今まで考えてたことと想像以上にちがっていて、みんながやさしいことがとても伝わります。

私は、もう竹田の人、竹田市に育てられたと思っています。部活の先輩たちから、礼儀を教えてくれたことにもとても感謝しつづけています。自分のためと思わず、みんなのためにたくさんのことを考えたりしていることがとてもすごいとおもいます。これから何年何十年とすげていくけれど今のようなみんなが、「相手」を真剣に考えられるように私も声かけなどをしながら何年たっても今の竹田のあたたかさを大切にして、今よりも、もっともっとみんなが人と仲よくなれるようにがんばっていきたいです。そして私のようにどこから引越してきた子がいたら竹田のいいところ、人間関係性を教えていきたいです。そして、竹田のことを大好きになってもらいたいです。

【竹田市歴史文化館長賞】

川崎 夢奈
(竹田中学校3年)
「100年後に残したい
竹田の魅力」



【竹田市歴史文化館長賞】

田部 真穂 (竹田小学校5年) 「廉太郎の音楽を100年後まで」



【たけた100年プロジェクト賞】 ふるさとを守るために

田北 寛仁（直入中学校3年）

僕は竹田市の直入町に住んでいて、直入のことはよく知っていると思います。しかし竹田市全体のこととはあまり知りません。

竹田市については、少子高齢化が進んでいるということをよく耳にします。総合的な学習の時間に、自分で調べてみると、平成十二年から平成二十二年の十年間だけでも一〇パーセントも減少していることを知ることができました。さらに調べてみると、高齢化比率が四九パーセントを越えていることもわかりました。このまま少子高齢化が進んでしまうと、農業の後継者がいなくなったり、保育園などの教育施設がなくなったりしてしまうのではないかと感じ、ぞつとしました。

このことを踏まえ、竹田の人を増やすためにはどうすればよいかを総合的な学習の時間に考えました。そして、竹田の魅力を詰め込んだパンフレットを作り、修学旅行の京都や竹田の駅前で配ることになりました。パンフレットを作るために話し合いをしたり、より良いものにするためにパンフレットやＩＣＴに関わりのある大人の人に改善点を教えてもらったりしました。

作るのも配るのも大変でしたが、実際に配ってみて、竹田の魅力を紹介すると配った方が「行ってみたい」「素敵」と言ってくださり、とても嬉しかったです。

このように竹田に人を増やすためには、竹田に住む僕たちが竹田の魅力を知り、竹田を知らない人に伝えることが一番に大切なことだと感じました。今はＳＮＳなどを使えば、日本だけでなく、世界に向けて発信することができます。竹田には、住んでいる人のあたたかさ、岡城などの史跡、長湯温泉や高原などの自然、農作物など、たくさんの魅力があります。それを伝えていくことで、このふるさとの魅力を守っていきたいと思います。二〇年、一〇〇年先まで。

【たけた100年プロジェクト賞】 竹田と私～人口減少をくい止める～

戸井田 空也（緑ヶ丘中学校2年）

竹田は百年後どのような姿になっているだろうか。その明暗を分けるのはまぎれもない今の竹田に住んでいる人達である。今の竹田市を未来に向けてさらに明るくしていくためにはどのようなことが課題として挙げられ、改善を必要とするのだろうか。私は「人口減少」が一番の課題と考える。日本全体でもこの問題が深刻化する中、竹田市も例外ではない。ではどのようにすれば改善できるのだろうか。私は次の二つのことが重要だと考える。

一つ目は観光業の拡大である。竹田には岡城跡などの観光スポットが数多くある。しかし残念ながらそれを知る人は少ない。観光に来てくれる人を増やすことができれば竹田の魅力を知ってもらうきっかけとなり将来的には移住などで人口が増えることにつながるのではないかだろうか。そのためにも竹田に住む人が積極的にＳＮＳ等を活用して情報を発信したり、小・中学校、高校などでも市外を訪れ竹田のことを知ってもらえるような活動をしてみはどうだろうか。

二つ目は小・中学校の合併を進めることである。私は人口減少には小・中学校の合併も関係していると考える。理由としては今後、極端な小規模校が増えると、将来の竹田の未来を創っていく子どもたちどうしの関係が薄れ、どんな活動をするにもなかなか連携がうまくいかない可能性がある。そのため今のうちに子どもたちの友好関係を築いていくことが大切なのではないか。知り合いが多いほうが困ったときに頼れる仲間が増える。当然である。

今の時代は各市町村で様々な課題がある。私はこの作文を書く時間をとても有意義に感じるとともに、次の竹田市を担う一員として自覚をもてたような気がした。未来のために「今」動き出すことが大切である。

【たけた100年 プロジェクト賞】

酒見 華望
(竹田中学校3年)
「100年後に残したい
竹田の魅力」



【たけた100年プロジェクト賞】

勝永 いちこ (竹田中学校2年) 「夕焼けに色を奪われた電柱」



【たけた100年プロジェクト賞】 竹田の魅力について

森永 杏莉（竹田南部中学校1年）

私が、竹田の魅力について考えたことはたくさんありますがその中でも3つ選んだのでそれを紹介します。

1つ目は、自然が多いところです。竹田は緑が多くとても色とりどりな町です。ゴミのポイ捨てなどをやめたらもっと環境がよくなりこれ以上に自然がふえると思います。

2つ目は、学校についてです。竹田の学校は全部ではないと思いますが少なくとも私の学校は上下関係が少なく、3年生や2年生と仲がいい人がたくさんいます。もっと仲よくなるために仲間づくり活動などもありとても良いなと思います。

3つ目は、竹田の人はみんな人がらがよくやさしい人がたくさんいることです。私がこまっていた時にやさしくはなしかけてくれる人や、ゆずり合う姿をたくさんみてきました。

では、もしやさしい人がいなくなったら竹田はどうなるのでしょうか？そのことに着目して考えてみましょう。

私の考えでは竹田は環境がわるくなると思います。今このようにきれいで美しい環境を保てているのはやさしい人が多いからまわりのことを考え行動しているからだと考えました。みなさんとは違う考え方かもしれませんが私はそう思います。

私はおもいやりあふれるすてきな竹田になったらこれまで以上に環境や人間関係、伝統文化などにもつながるのではないかと思います。

これから竹田がもっとよりよい安全で楽しくすごすことのできる竹田にするために私は、色々なボランティア活動や、助け合いに積極的にとり組んでいきたいです。そして今、自分ができることを考えより良い竹田にします。

竹田のみんなで協力し、助け合いこれから竹田に真剣に向き合い「竹田は良いところだ！」と思ってもらえるような良い「竹田」にしたいです。みんなの行動で竹田はかわります。持続可能な竹田をみんなの手で創っていきましょう。

【たけた100年プロジェクト賞】 竹田市の魅力と竹田市のこれからについて

添田 愛莉（豊岡小学校6年）

竹田市は、人口が少ない市ではありますが、たくさんの魅力があります。一つ目は、岡城や竹楽があるところです。岡城は国指定史跡に指定されています。昔は城がありました。今でも、城のあとが残っています。今では、城がない城として有名です。

竹楽は、竹を使ったお祭りです。2000年から始まった竹楽は、竹が多くて、竹を使ったお祭りはないかと、里山保存会の人たちが考えました。こうして考えられたのが「竹楽」です。今では、県外や外国から来る人が増えました。昨年は、約12万人も来ました。今年で、竹楽は26回目をむかえます。竹楽は、百年も続くお祭りをめざしています。

私が一番しようかいしたい竹田市は、温泉や水がたくさんあるところです。温泉は、長湯温泉が一番有名です。日本一の炭酸泉として有名です。この炭酸泉を未来に残すには自然を大切にすることです。今、炭酸泉が減少しています。竹田市の炭酸泉がなくならないように、自然を大切にするのが一番だと思います。

次にしようかいするのは、水です。竹田市は、湧水がとっても有名で名水百選にも入っています。ダムも多いので水不足に困ることはありません。

そして、竹田市の日本一は、サフランです。サフランが日本一の生産量を保っています。給食に「サフランライス」も出るほど有名です。トマトやピーマンも有名で、市外から買いに来る人もいます。夏になるとスイートコーンもあり、たくさんの人たちが買いにきます。

からの竹田市は、人口が減っていくかもしれません、竹田市の歴史がなくならないために、自然を大切にして、竹田市を世界一自然が良い市にしていきたいです。

【たけた100年プロジェクト賞】

北條 里桜菜（竹田中学校1年）「岡城」



【たけた100年プロジェクト賞】

岩川 晋（緑ヶ丘中学校1年）「100年後に残したい竹田の魅力」



【たけた100年プロジェクト賞】 100年先の竹田市の豊かな自然が続くために

首藤 遥花（竹田小学校6年）

竹田は、と～っても緑が多く、とても自然豊かな市です。都会などと違って大きな建物もなく本当に緑が多く私が大好きな市です。

私は、この竹田市をもっともっときれいな市にしていきたいです。そう思った理由は、今も、と～っても自然が多くて動物達もたくさんいるけれど、人が山や森にゴミを捨てたり、使い終わったゴミを持ち帰らなかったりすることがこの市のどこかであって動物たちが住んでいる森や山の中での暮らしに影響しているかもしれないと思ったからです。このことに対して、どうすればそうならないか？をしつかり考えて行動に移してみんなや竹田市内にいる動物のため、生物や虫などのためになるように活動をして、今よりも、も～っと美しくしていきたいと思ったからです。

この市には、瀧廉太郎先生という作曲家がいました。瀧先生は竹田小学校の卒業生で私達の先輩です。私達は瀧先生の曲をいろんなことで歌い続けているのでこれからも大切に歌い続けていきたいです。そして、瀧先生の歌を通して瀧先生の思いを伝えていきたいです。

これから10年、20年、30年～100年と続いていく竹田市の自然や文化をこれから生まれてくる子どもたちに、届けていきたいです。

そして、竹田市は、今よりもっと美しい自然豊かで市にいるみんなが思いやりがあって、やさしさがある市になっていくと私は思っています。

最後に私達が自然を守ることはたくさんあります。ゴミひろい、使ったゴミは、ちゃんと持ち帰るなどできることはたくさんあるので、みなさんもこういうことを少しでもやってみませんか？

私達が大好きな市がこれからも続いていけるように自分にできることをたくさんやっていきます。

【たけた100年プロジェクト賞】 わたしの理想

荒巻 心咲（久住小学校6年）

私は、久住が大好きです。久住ならではの食べ物もおいしいし、人もとっても優しいです。でも久住は、若い人がとっても少ないです。わたしのクラスも8人しかいません。だから、おじいちゃん・おばあちゃんが作ったやさいや食べ物を売れるところを作り、わたしたちがボランティアとしてそこでうりたいです。そしたら久住のよさをもっとしってもらえるとおもいました。わたしたちが売れないときはおじいちゃん・おばあちゃんにもてつだってもらい、いっしょに売りたいです。そしたら、おじいちゃん・おばあちゃんたちのやさしさもしってもらえるはずです。わたしは久住の自然も大好きなので、自然をいかした、たけのこやふき、山菜などを売りたいです。

私は、料理をするのが好きなので、おじいちゃん・おばあちゃんの作ったやさいなどで、きせつにそったサラダを作ったりしていきたいです。

《募集要項》

竹田市内の小学5、6年生と中学生の作文・絵画、大募集！！

（作文 “竹田と私～これからの20年、そして100年～”
絵画 “100年後に残したい竹田の魅力”）

今年は、昭和元年（1926年）12月25日からちょうど100年目にあたります。また、竹田市制施行20周年でもあります。この記念すべき年に、「たけた100年プロジェクト～昭和から100年、そして未来へ～」の一環として、小中学生の作文・絵画作品を募集します。

竹田市内の小学5、6年生と中学生のみなさんに、先人たちが築いてきた歴史や文化、産業などの歩みに思いを馳せつつ、竹田市への思いを作文や絵画で表現していただき、次の20年、そして100年に向けた新たな出発点としていただききっかけとなればと考えています。

たくさんのご応募をお待ちしております！

1 募集する部門

作文：原稿用紙2枚（800字）以内、縦書き（市販の原稿用紙、ワード原稿可）

「竹田と私～これからの20年、そして100年～」に沿った内容、題名は自由。

絵画：四つ切り画用紙（54cm×38cm）、タテ、ヨコどちらでも可。

「100年後に残したい竹田の魅力」に沿った内容、題名は自由。

2 応募資格

竹田市内にお住まい、または通学している小学5、6年生、中学生

応募作品はご本人のもので、未発表のもの1点に限ります。

3 賞

部門①作文・②絵画ともに、

竹田市教育委員会教育長賞

竹田市歴史文化館長賞

たけた100年プロジェクト賞

《応募状況》

作文：応募 128点

絵画：応募 25点

たけた100年プロジェクト
～昭和から100年、そして未来へ～
入選作品

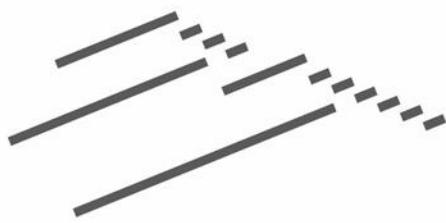
発行日 令和7年（2025）12月25日

編集・発行 竹田市歴史文化館・由学館

〒878-0013

竹田市大字竹田2083番地

0974-63-2200



竹田市歴史文化館・由学館

Taketa History and Culture Museum